

でした。家から榎柳とうどの実と柿を持って行って生けて見ていただきました。その時家元は「これにはいけばなの心がある、今晚はこの作品を肴にしてお酒をのもう」と言われました。きっとこの事はいつまでも私の支えになりそうです。

今年の新年会で今一番おはなをいけていて困ることという質問を受けました。いけばなはこわいほどその人が出ます。たとえ立場は生徒であっても、技術的には未熟であっても何とも言えず良いいけばながいけられているのを見る時、この道の速さを想います。やさしいおはな、楽しいおはな、まるやかなおはな、なごやかなおはな、相手を受入れるお花。今すぐとは言いませんが誠実なだけの私のおはながもう一息唱いたいと思うのです。たとえ声は小さく低くともなるべくよい声で。

これまで田口先生というよき師に恵まれ、数多くのよき弟子に恵まれて順調な道を歩ませていただきました。今後は一層きびしい試練の道でしょう。私の生活の中でいけばなの占める割合が大きくなったり小さくなったりその時々で変化するでしょうが、その時その時で精一杯の努力をしたいと思っています。

いけばなの魅力は何ですかと聞かれたら「まあ一度なさってごらん下さい」としか言えません、いけばなと私との出会い、人生にはふしぎな道が開けるものです。 (7回生)

四人のとしごと暮す日々

土 橋 香奈子

むかし、式先生が「女子の学校は弟子が育たないからつまらないですよ。」と嘆いていらした。学問を志すと思いきや、卒業すれば、ほいほい結婚して、地理学よさようなら、というのでは…云々。傍らで渡辺先生が「いや、女はおヨメさんになって子供を産まなきゃいけませんよ。」と学問よりも女の道を説いていらした。

以来十年、渡辺先生の感化がより強かったのかどうか、四才をかしらに四人の子持ちとなって、お茶の水地理の編集委員からも、学術論文に非ずして、「子供との明け暮れ」を所望される身と相なった。一時代前ならば、四人の子供など当たり前、というよりむしろ少ないぐらいなのに、少数精鋭主義の昨今では、近隣の注目を浴びて、大いに羨ましがられ、内心は呆れられ、「もう少しの辛抱だからしっかりしなさいよ。」と励まされ、幾人かには、「お宅はカトリックですか。」と尋ねられ、さらには、「家族計画の御相談に参りました。」と何やらの押売りのおばさんまで登場するに及んで、いったい肩身が広いのか、狭いのかこの混乱した頭では判断がつかねる状態となった。

子供は四才、三才、もうじき二才、それに八ヶ月の赤ん坊で、年が接近しているため良く遊びも

するが、騒ぎもまたひどい。一番追われるような思いをするのは食事の時に、上の二人はどうかこぼさず食べられるが、三番目は一人で食べたがるくせに食卓や床にいっぱいこぼし、その足元へ赤ン坊が自分も食べたいとキィキィ云いながら這って来る。そこで私は、自分の食事を取りながら上二人におかずを文句の出ないよう公平に取ってやり、三番目のこぼしたのを捨てて手や食卓を拭いてやり、赤ン坊にごはんを食べさせるわけで、何だかいつも食べた気がしない。

その次にうんざりする時は寝かせる前で、まず部屋一面に散らかっているガラクタを箱に片づけさせる。といつてもなかなかラチがあかないので、私も一緒になって投げ込む。これを怠ると布団の下に積木があったりして良く眠れない。布団を敷くとそれとばかりに布団の上で三人跳ねまわるので、叱りつけながら寝間着に着がえさせるが、その時二番目の子はなかなかボタンがはずせない。だからといって、うっかりはずしてやっってしまうものなら、「一人でする〜」とひっくり返って怒る。又、三番目の先に寝間着を着せてやっても、二人が裸で飛びまわっていたりすると、マネしたくて又さっさと脱いでしまう。さらに、夜中の洪水を避けるためにトイレやオマルに追いやるが、そのすきに夕刊など読んでいたりすると、赤ン坊がオマルにつかまり立ちをしようとして、オマルもろともひっくりかえったりするので油断は出来ない。早く寝かせて自由の身になりたいと、自然恐れ顔になって取り押えていると、横で主人が、「このごろ、だんだんアサイさんに似て来たねえ。」と、いつかテレビで見た名古屋動物園のゴリラ調教師を思い出している。『うちのゴリラ』共は、生意気千万で、ろくに口のきけない三番目すら「イヤ」だけははっきり云うので、動物園のゴリラより程度が悪いが、もっとも四人そろって眠ってしまえば、こちらもやれやれと山上憶良の心境になる。だからこそ、毎日同じことを飽きもせず繰り返してられるのかも知れない。

(9回生)

ニュージャージー便り

稲村ふみ

3月末に渡米して、もう間もなく3ヶ月になります。着いた3日目の復活祭には、50年ぶりとかの大雪で驚きましたが、今はあたり一面緑につつまれています。

私の住むニュージャージーは、というより私どもの住んでいるあたりは、ニュージャージー州の東部でマンハッタンのすぐ近くです。マンハッタンのアップタウンのジョージワシントン橋から、ハイウェイを車で5分のところ。マンハッタンはビルと人の波ですがハドソン川をわたると緑の世界で、ごく一般的なアメリカ人の小ぢんまりした家屋が、おもちゃのように建っています。あた